

助け合い 再認識した今

コロナ禍で生活が制限される中、人とのつながりや助け合いの大切さを再認識した方も多はず。自主的に行う助け合いや社会貢献活動として、ボランティアがある。

昨年、三重県が県民を対象にした「第9回みえ県民意識調査」によると、ボランティア活動を含む地域をより良くするための活動に「参加している」と「どちらかといえば参加している」と回答した人の割合は計19・8%。5年間おおむね横ばいで推移している。年齢別で見ると、若い年代ほど「参加」の割合が低い傾向にある。

多気町では、町民のボランティア活動への参加を促進しようと、「多気町福祉ボランティアポイント商品券」を発行している。主に町が指定する福祉ボランティア活動に参加し、ポイントをためると、町内の登録店舗で商品券として利用できる。ボランティア活動を通して、町民同士の交流や町内経済に貢献できると期待される。

今秋には「三重とこわか国体・大会」がある。全国から訪れる選手らを迎え、運営や広報活動をサポートするボランティアを募集中だ。助け合いの大切さを再認識した今だからこそ、ボランティアの協力の下、全国からの来訪者をおもてなしの心でお迎えしたい。

(コンサルティング事業部 調査グループ 研究員 片山 美帆)

朝日新聞「三重のけいざい ひと息コラム」 2021年2月22日